

## NVCは11年目に入りました

NVCベトナム駐在のリンさん(写真左)が、2000年度総会と10周年記念の会への出席のため、初めて新潟を訪れました。そのリンさん、NVCの事務所を見て、「こんなに小さいの?」とびっくり。さて、その意味は・・・?

(10頁からの記事をご覧ください)



白山公園にて高橋代表と

### CONTENTS.....

|                                      |          |
|--------------------------------------|----------|
| 2000年度総会レポート                         | ..... 2  |
| <b>特集 NVCの20世紀</b>                   | ..... 4  |
| NVC20世紀活動マップ                         |          |
| NVCがしてきたこと                           |          |
| NVC10周年記念の会レポート                      |          |
| 次の10年に向けて (原 敏明 会員)                  |          |
| Hot News                             | ..... 14 |
| VFP(ベトナム未来プロジェクト)最新情報                |          |
| NVCバングラデシュが動き始める                     |          |
| NPO情報交換会が開催されました                     |          |
| 新潟日報「ささえあい」連載について                    |          |
| リレー・トーク ~ NVC's Human Network ~      | ..... 18 |
| 瀧澤 勇人さん / 中谷 和子さん / 坂 有祈子さん / 宮 永承さん |          |
| 事務局だより                               | ..... 20 |

# 2000年度総会レポート

2000年度NVC総会が、5月14日新潟市総合福祉会館で開かれました。



出席者は63名。また今回は、来賓としてNVCベトナム駐在のリン(Ly Thu Linh)さん、JVCラオス担当の山口誠史さん、NVC初の感謝状を差し上げるようになった受章者33団体9個人の内、9団体3個人(JVC含む)の方々にもご出席いただきました。

総会では、1999年度事業および決算の報告、そして2000年度事業計画及び予算・役員承認が滞りなく行われました。総会後はティータイムをはさんで、「NVC10周年記念の会」が開かれ、感謝状の表彰式とリンさんとのトークセッションがありました。

以下に、1999年度の事業報告と2000年度事業計画の概要を記します。

## 国際事業

まず、国際事業全体について多賀会員より説明がありました。個々のプロジェクトについては各担当に委ね、多賀会員からは

- ・ユーゴスラビアの支援は、担当会員江口氏を中心とした別団体が展開することになった
- ・ベトナムへの緊急支援 VEP9911の成功は高く評価できる

- ・カンボジアでの米生産支援を検討中だが、諸般の事情で遅れている
  - ・マダガスカルでの植林ボランティアに10名程度派遣する予定
- などのコメントがありました。

### スタディツアー(担当: 関会員)

昨年度は、第25回(ベトナム・38名)第26回(ベトナム・2名)及び第27回(バングラデシュ/ベトナム・5名)の3回が行われました。今年はバルト3国・マダガスカル・ベトナムの3回の予定です。マダガスカルにおいては、新しい試みとしてmoney & laborのコンセプトを取り入れ、JICAが行っている現地での植林事業へのボランティア短期派遣を12月に予定しています。

### ラオス(担当: 山井会員)

JVCラオスに対して20万円の資金援助を行いました。今後は、JVCが現地で行う様々なプロジェクトの中から特定のプロジェクトを指定し、その全額を支援する形にしていきます。また、ラオス行きのスタディツアーも検討したいと思っています。

### ベトナム(担当: 福田会員)

VFP11(絵手紙交換)、VFP12(クチ地区タイミー村小学校)、VFP13(奨学金)、VFP14(クアン・コム・サー・ホイ〔QCXH: 社会食堂〕)、VFP15(連合奨学金)、VFP16(キークワン寺盲学校)、VFP17(ピンフォック村小学校)について、結果や進行状況の報告がありました。

また、昨年はベトナム中部の大洪水に対する緊急支援としてVEP9911が行われましたが、2週間で約6000ドルが集まり、食料・毛布・薬品や幼稚園・学校の再建などへの支援に充てられました。同プロジェクトについては「もうひとつのかけはし・46号」に詳しく紹介されていますが、その後、水落、福田、関(洋)会員らが現地を訪れ、その時の様子が総会で報告されました。

なお現在、ベトナムにおけるNGO登録を申請中です。

### 贈写版プロジェクト(担当: 大竹会員)

昨年度実施できなかったワークショップを今年度実施すべく企画中です。

### バングラデシュ(担当: 藤崎会員)

昨年11月、高橋代表、多賀、藤崎、大竹、坂上会員らがNVCバングラデシュ代表のカベリさんを訪れ、同プロジェクトに対する一般合意書の調印が行われました。現在、現地でのNGO登録が政府側の要因で滞っている\*のようですが、承認され次第口座を開設し、約9800ドルの支援金を送金する予定です。

尚、今回のプロジェクト名は'BACHTHOBE'(ベンガル語で「生きなければならぬ」の意)と決まりました。

(\*総会後の6月、承認の旨通知がありました。16ページ参照)

## 国内事業

まず、国内事業担当の野水会員による概要説明に続き、各担当より個々のプロジェクトについての報告と事業計画案が出されました。

### NPO(担当: 関会員、村山会員)

昨年10月4日、「特定非営利活動法人(NPO法人)新潟国際ボランティアセンター」が誕生しました。県内での先駆けとして、そのノウハウを活かした他団体への情報支援を行っていく予定です。

### 愛の架け橋バザー(担当: 嶋田(正)会員)

'99年10月17~18日に開催された第11回バザーは、「NVC10周年記念」の名にふさわしく、過去最高の300万円を超える収益を上げました。今年もそれに甘んじることなく、さらに大きな成功を目指してがんばりましょう。

### 地球を知る講座(担当: 小池上会員)

昨年は、第23回(JVCラオス駐在代表 塚本和泉氏)および第24回(元JVCラオス 原田恵津子氏)を開講しました。今年も数回程度開催を予定しています。

### 出版(担当: 滝澤会員)

昨年のNVCの出版物は、「かけ橋」13、14号と「もうひとつのかけ橋」45、46号でした。

あと、出版物ではありませんが、新しいカラーパンフレットを作成しました。

## その他

NVCが感謝状をいただきました。

WOCA(ホーチミン市婦人慈善団体)

ホーチミン市学生援護局

ホーチミン市人民会議から感謝状とメダルが多賀会員に送られました。

リンさんが、預かってきた感謝状とメダルを多賀会員に手渡した



# 特集 NVCの20世紀

Special Feature: NVC in the 20th Century

20世紀最後の約10年間、NVCは生まれ、育ち、そして確実に何かを残して21世紀を迎えようとしています

NVCの20世紀活動マップ

|           | 1989      | 1990            | 1991         | 1992      | 1993         | 1994      | 1995      | 1996      | 1997      | 1998          | 1999      | 2000 |   |
|-----------|-----------|-----------------|--------------|-----------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------|-----------|------|---|
| バザー       | 2,134,833 | 1,794,835       | 2,065,040    | 2,151,969 | 2,478,006    | 1,375,389 | 2,121,573 | 2,241,948 | 2,589,364 | 2,455,089     | 3,088,555 |      | これまでの売上・バザー寄付金計 24,496,571円   |
| ラオス       | \$10,000  | \$10,000        | \$10,000     | \$10,000  | \$10,000     | \$10,000  | \$10,000  | \$10,000  | \$10,000  | \$10,000      | 20万円      |      | 10年間で約1250万円を協力   |
| スタディツアー   |           |                 |              |           |              |           |           |           |           |               |           |      | これまで計27回<br>今年度は第28～30回開催予定   |
| 地球を知る講座   |           |                 |              |           |              |           |           |           |           |               |           |      | これまで計24回(1994～)   |
| 出版        |           | 「国境を越えて遠く」      |              |           | 「ネットワーク・ラオス」 |           |           |           |           | 「われ思う故アジアに在り」 |           |      |   |
| 旧ユーゴ      |           |                 | 「遠いアジアを見つめて」 |           |              |           |           |           |           | 「戦火の果てに生きて」   |           |      |   |
| 留学生国保     |           |                 |              |           |              |           |           |           |           |               |           |      | 平成7年度から11年度まで、合計442人の留学生を支援   |
| VFP       |           |                 |              |           |              |           |           |           |           |               |           |      | 継続展開およびPACCOMへのNGO登録  |
| 贈写版       |           |                 |              |           |              |           |           |           |           |               |           |      | これまでの事業の評価調査実施  |
| バン格拉ディッシュ |           |                 |              |           |              |           |           |           |           |               |           |      | NVCバングラディッシュ創設<br>NVC規約英訳のためのアドホックグループ形成<br>現地NGO認定後事業開始  |
| カンボジア     |           |                 |              |           |              |           |           |           |           |               |           |      | 米生産支援   |
| 広報        |           | かけ橋、もうひとつのかけ橋発行 |              |           |              |           |           |           |           |               |           |      | かけ橋15号<br>もうひとつのかけ橋46号  |
| NPO支援     |           |                 |              |           |              |           |           |           |           |               |           |      | インターネットホームページ作成 <a href="http://welcome.to.nvc">http://welcome.to.nvc</a><br>10/4 NPO法人格取得<br>ノウハウの提供 |
| 特別企画緊急事業  |           |                 |              |           |              |           |           |           |           |               |           |      | 奥尻島、阪神大震災、新潟朝鮮学校<br>まなびピア、10周年記念事業<br>バルト三国へ日本語教材の寄贈<br>マダガスカル植林ボランティア                                |

# NVC がしてきたこと。。。。

1989年、新潟大学の学生・市民ら有志が、家庭や企業で眠っている贈答品などを集めてバザーを開き、その収益金から1万ドルをJVC日本国際ボランティアセンターがラオスで行っていたプロジェクトへの支援金として送りました。このことが発端となり、翌1990年にNVC新潟国際ボランティアセンターが誕生、バザーはその後も継続して開かれ、ラオスの農村生活改善や乳幼児死亡率低下のため、10年間にわたり毎年1万ドルが送られることになりました。

**発足以来**、NVCは一体いくつの事業を手がけてきたのでしょうか？ NVC独自の事業として1995年にスタートしたVFP：ベトナム未来プロジェクトでは、ホーチミン市周辺に8つの小学校とストリートチルドレンの為にオープンハウスを建設、さらに社会食堂や盲学校への支援を行ってきました。地元NGOのWOCA（ホーチミン市婦人慈善協会）をパートナーとし、その上で人員を派遣してフィールドワークを行ったり、現地駐在（リンさん）を置いて、再評価を加えつつ新たな展開を模索しています。そのVFPが長岡市の米百俵賞を受賞した1999年、バングラデシュの洪水被災者支援プロジェクト"BAKHTHOBE"（ベンガル語で「生きなければならぬ」の意）がスタートしました。現地組織NVC BangladeshのNGO登録が先月完了し、本格的な支援が軌道に乗ろうとしているところです。

この他の国際事業としては、旧ユーゴスラビア難民支援のためのチャリティコンサート（1994）、ベトナム中部大洪水被災者への緊急支援（1999）、そして毎年1～数回行われているスタディツアー（27回）などがあります。

**国内事業**としては、書籍の出版（8冊）、「地球を知る講座」の開催（24回以上）、阪神淡路大震災被災者支援（1995）、留学生国民健康保険加入支援（1995～）、そして何と云っても、恒例「愛のかけ橋バザー」（11回）などがあります。

国内外全ての事業を改めて数えてみますと、設立以来の10年間で6ヶ国28事業（継続事業は1とカウント）に上ることがわかりました。これらの事業は全て、押しつけや強制でなく、誰かが「やりたい」と言ったところから始まっています。この実績は、まさにNVC会員の熱意の表れと云うことができるでしょう。

**活動の源**は「ひとびとの心」です。昨年開かれた第11回「愛のかけ橋バザー」では、売上・バザー寄付金の合計が過去最高の約309万円を記録しました。自分達で言うのもなんですが、バザーとしては決して安くはない商品を、常連を含む多くの人々が毎年訪れてほとんど買って行ってくれます。単なる安売りではないという価値観が、買い物に来る人々にも支持されているのです。その他の主な資金源としては会費収入や寄付金がありますが、NVCが徐々に信頼を蓄積すると共に着実に数字を伸ばしています。

これらのNVCの収入は、必要経費を除いて全て事業に投入されています。会員が知恵を出し、体を動かすことは全て無償のボランティア。事務局として使っている部屋も、にいがた22の会さんのご好意により貸していただいているものです。人々の善意でいただいたお金を、1円でも多くその心に沿った活動に充てていきたい……NVCが発足以来一貫して持ち続けている心です。

**昨年**、NPO法人格を取得しました。このことにより、支援対象国において契約行為がしやすくなったり、現地法人としての登録も可能になるなど、海外で活動する際のメリットは大きいものがあります。でも反面、事務量が増大し、納税の義務が生じるかもしれないなどのジレンマもありますが、10年間で本当に大きく成長してきたNVCですが、活動が広がれば広がるほど、「責任団体」としてのあり方を議論する必要ができています。



VFP3 ニャーペー地区フックロック村小学校（1997）



VEP9911 ベトナム中部大洪水被災者緊急支援（1999）



VFP4 ホックモン地区ドンタン村小学校（1997）

第22回スタディツアー（1998・ラオス）



第11回愛のかけ橋バザー（1999）



去る5月14日、2000年度総会と併せて「NVC10周年記念の会」が開かれ、これまでお世話になってきた方々に対する感謝状の表彰式と、NVCベトナム駐在のリンさんを迎えてのトーク・セッションがありました。その日のゲストの方々からいただいたすばらしいメッセージを、当日出席できなかった皆さんのためにご紹介します。

## 2000.5.14 「NVC10周年記念の会」レポート

### 33 団体 9 個人の皆様に感謝状を差し上げました

この日ご出席いただいたのは、そのうち9団体3個人の方々。表彰式に続いて、ひと言ずつお言葉を頂戴しました。(掲載は発言順です。)

小堺 英雄 様

小堺でございます。思いがけず感謝状をいただきありがとうございます。感謝するのは私のほうでございます。ベトナムに学校を建てたということ、それは当然ベトナムの子供たちのためにという発想があるのですが、実は嬉しいのは私の方でございます。開校式で先生方や子供たちの喜ぶ顔を見ることができたのも喜びの一つであります。

日本に帰ってからも、年々歳々、何世代もの子供たちが学び、成長する様子を想像できる喜びがあります。このようなことが実現したのも、NVCの実績を私が見て、信頼できる団体だと確認した上で、協力をして頂いたお陰でありまして、誠に感謝しております。

全通新潟地区本部 佐藤 文男 様

全通の佐藤文男でございます。さて、労働組合としてNVCとお付き合いしているというのも稀かと思えます。といいましても、組合と申しますと労働条件や賃金など、自分たちのためだけに旗を振ってきたという歴史がありますけども、1986年ごろからやはり地域・社会に根差した組合たるべきだという発想の転換が提起されました。そして自分たちの運動にどのような価値観を求めていくかということで、ソ連の崩壊などもあり、「国際交流」ということをやってきたわけです。

そうした中で郵政省もボランティア貯金ということで郵便貯金の利息の20%を国際交流基金とし



て送るということを始め、仕事を通して国際ボランティアというものに取り組んできました。その中でNVCの活動を知り、ベトナム未来プロジェクトに出会いました。そして98年に3名がスタディーツアーに参加したことなどもありまして、97年から一人ひとりのカンパを集めた結果が今年のベトナムの小学校開校へとつながったわけで、組合員3600名、非常に喜んでいただいております。

さて、これからもこのような活動を続けていこうということで、すでに二校目の小学校建設のために動いております。私たちもNVCに出会って、組合員もこのような活動に様々な観点から興味を持っております。今後もよいお付き合いをお願いしたい、ということでお礼の挨拶とさせていただきます。

大湊 彩恵 様

うちの彼(主人)は戦前教育の時代に育ちまして、8人兄妹の四男、上の三人の兄は戦場ということもあって自分が働く必要があり、教育も満足行くものではありませんでした。そんな中で袖山さんを通じてNVCの活動を聞いて、「いいことをやっているなあ、何か協力できないかなあ」と思っていた矢先に脳溢血で倒れまして4,5年の闘病生活をいたしました。本来なら香典は全額こちらの方に、と思ったのですが、色々な病院にお世話になったので、施設の充実を図って頂こうと各病院に分配いたしました。

今後も、皆さんの活動が継続され、アジアに学校がたつことで、亡くなった主人の教育への希望

が何らかの形で伝わっていけばなあと思います。本日はどうもおめでとうございました。

新潟大学国際ボランティアサークル 代表 前野 春樹 様

代表を務めております前野春樹です。本日はこのような表彰状をいただき大変うれしく思います。今日は前代表の坂も出席していて少々居心地が悪いのですが(笑)

私はNVCに来る際は、いつも「どんな人に会えるのだろう」という期待を抱いて来るのですが、家に帰って今日もいい人に会えたな、と思うことが結構あります。このような経験は自分の財産になっておりますので、後輩たちにもこのような体験をして欲しいと思っております。今後も何かとお世話になるとは思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

にいがた21の会 熊木 徳次郎 様

本日は10周年誠にありがとうございます。さて蛇足でございますが、今まで私たちは「にいがた21」の会という名称でございましたが、今月から「にいがた22の会」とさせていただきます。21というのは21世紀を見据えて、ということだったのですが、もう21世紀が間近に迫っているので22世紀に向けてということで22の会にしたわけですが、まだ対外的には発表しておりません。(笑)

21の会とは何をやっている会かと申しますと、中々説明するのに手間のかかる、一般の方には理解してもらえない会ではありますが、NVCさんと同じ事務所にいるおかげで私たちの社会的認知度も上がっているところでございます。(笑)

NVCさんについても10周年とお聞きしまして、私もっと長い間活動されているものと思っておりましたので、驚いていた次第であります。これは、それだけ国際的に評価される活動をされているということで、そのことに心から敬意を表しております。

この10周年を機にさらなるご発展・ご活躍を願ひまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

新潟県寿司商環境衛生同業組合 山田 藤市 様

新潟では村上から糸魚川まで23支部、410店の寿司屋があり、新潟は米・魚・水がおいしいと言われております。その中でNVCの活動を知ったのは「小野沢裕子のいきいきワイド」というNT21さんの番組内の、「はなよめさんにありがとう」と

いつコーナーに出演したときでした。そこでNVCのストリートチルドレンのための活動を知りました。これはいい活動ではないか、と寿司屋も寿司を握るだけではなく、その手で世界の困っている人の手を握って手を貸すことはできないかというように理事長に提案いたしました。現在は市内82店舗の店頭において、ストリートチルドレン募金ということで、「越後から越南へ感謝の気持ちを」というポスターをはっております。

まだまだ微力ですが、市内で行っている活動を県下全体に広げたいと考えております。

このたびは10周年誠にありがとうございます。

連合新潟 江花 和郎 様

今日は10周年おめでとうございます。私どもも昨年10周年ということで、記念事業の中に国際貢献という分野を設けまして、多賀先生にご相談して、ベトナムの大学生に奨学金を送るということになりました。

先程全通の佐藤委員長より組合の質の変化というお話がありましたが、私どもも「固い」イメージのあった組合を柔らかくしたいという思いがありました。一人ひとりが持っている魅力・活力をどのように引き出すのかというのが最大のテーマでして、上から下へということではなく、情報と機会の提供というのが一つの重要な課題になっているのではないかと思います。

NVCはそういった意味で大変魅力的だと思っております。ただ、今日の議案書に昨年の12月に行った滝沢会長と私のベトナム訪問が、第26回スタディーツアーの実績として報告されておりまして、NVCというのはちゃっかりしてるというかしっかりしてるというか(笑)...が、その結果として私も今年から個人的に会員にならせて頂きました。(笑)

そういうことで、皆さんと一緒に活動できたらと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

新潟中央郵便局 総務課 高橋 真也 様

このような感謝状をいただきありがとうございます。

私どもは、郵便局が情報発信・交流の拠点となることを目指して活動しております。今後もバザーのことが中心となると思いますが、応援させて頂きたい思っております。

本日はどうもありがとうございました。

JVC日本国際ボランティアセンター  
ラオス担当 山口 誠史 様

10周年おめでとうございます。この10年間、私たちJVCの方が皆さんに支えて頂いたので、本来こちらのほうが感謝しなければならず、本日はこのような感謝状をいただき大変恐縮しております。

JVCとしては、これからも現地の人と協力して活動を続けたいと思うのですが、その中でNVCとも対等なパートナーとして、ともに学び合い協力し合っていきたいと思っております。どうぞ皆さんよろしくお願いいたします。

新潟交響楽団 副団長 白井 克子 様

新潟交響楽団副団長の白井でございます。団長の大塚が都合がつかず失礼いたします。

もう一人の副団長の成嶋がNVCさんのアドバイザーになっておりますが、今日は私が一言述べさせていただきます。

(旧ユーゴスラビア支援の)ジョイントコンサートの際にはヤドランカさんと共演でき、とても楽しく、気持ちのよい演奏をすることができました。我々のように音楽をやっている者として、このような機会を与えて頂き、世界のための活動に少しでもお手伝いできたということに感謝いたします。また今日お話をうかがい少しでも人々のお役に立てたようで、嬉しく思っています。

今後もお手伝いできる事がございましたら、お声を掛けて下さいませ。

本日は、10周年誠にありがとうございます。益々の活動に期待いたしております。

NT21 三浦 真 様

NT21のオープンハウス支援プロジェクトキャンペーンのきっかけを作ったのは多賀先生でありますし、いきいきワイドのコメンテーターとしても出演されているので、表彰状は半分多賀先生にあげたらどうかと(笑)

さて、地域のマスコミとしてこのような活動に関わるというのは当然のことであって、感謝されるほどのことではありませんが、地域で番組を作っている限り、今後もそのような意識を持って活動していきたいと思っております。今、私は現場を離れておりますが、顧問として若い者にもそのように伝えておきたいと思っております。それでは、今後よろしくおねがいいたします。

## NVCベトナム駐在、Ly Thu Linh (リ・トゥ・リン)さんとのトークセッション

翻訳・進行：福田 忠弘 会員

福田：今日は、ベトナムからリンさんが来て下さいました。まず最初に、あちらの現状などについてお聞きしたいと思います。

リン：KONNICHIWA. I'm very happy to be here in Niigata today. Yesterday I went to NVC's office. And I thought it's very tiny. Before I thought NVC's must be big like this hall. The reason why I thought NVC's is big is there are a lot of projects you have been done to Vietnam, so I think NVC must be very big.

That makes me even more grateful to everybody here because you sacrifice yourself for other people in the world, especially in Vietnam. So I hope that your heart will spread out to the whole world. I really appreciate that. ARIGATOU.

I just want to say that after the war, Vietnam was really diversified and we were very very poor. But since 1992, Vietnam has open policy and the economics is getting better. But still the gap between the rich and the poor is wider now. From the latest statistics, we have about 7000 street children in HCM(Ho Chi Minh) city. But we have only forty open houses and shelters for that situation. So each open house can help only from 20 to 50 children.

And also after the flood, a lot of children from the central go to HCM city to live. Children in rural area face the poverty. Because parents don't have enough money, children usually have to work. They cannot go to school, or after school they have to go fishing or to get something so that they can have money.

So that's the general problem in Vietnam. Thanks to NVC, now a lot of children in rural area can go to closer and nicer school. As to those street children, NVC is supporting for example, they can stay in the openhouse even though the number is only 20. They have safer place to stay, they have future and they are really happy now. Also NVC is supporting about 30 handicapped children in ki Quan Temple, about 40 street children in Soopkitchen.

I mean in general NVC helps a lot of people, especially children in HCM city. But maybe I can tell about something one really needs for the

future. That's kindergarten. The government doesn't support kindergarten. If the parents have money, they can send their children to private kindergarten. If you don't have money, children cannot go. Those children whose parents can afford to send them to kindergarten will have more advantage in elementary school than the children whose parents don't have money. Maybe in the future NVC can construct more kindergarten than elementary school.

Another reason is that elementary school with six classrooms is the standard. If we support children or handicapped people and give them one hundred materials, it's very hard for us to check how those children are doing because we can't tell who receive the help. It's harder to see the result.

We'd like to see how the NVC's support will be like. For example micro credit program. That is to give money to people so that they can start small business and they pay you back money within one year or six month. This is some of the things NVC has not been doing yet, but I think it'll good someday. Also we'd like NVC to help with vocation training. That's because WOCA, Women's Charity Association in HCM city, already has a training school for hair beauty or sawing. they also has machines. But now we don't have the money to run it. If we can help this, every six month we can help about 100 youth to hire in sawing market or hair beauty.

I know that Professor Taga, as well as Chinami said that "Don't think we can do everything.", but I think we can dream everything will happen.

(日本語訳)

今日はここにこれで良かったです。新潟に来ることを長い間夢見てきました。NVCの皆さんが招いてくれたおかげで、初めて日本に来ることができました。昨日NVCの事務所に行ってきたのですが、ずいぶん小さいな、と思いました。(笑)

NVCはこれだけ大きな事業をやっているのだから、この建物のように大きな所に違いないと思っていたのです。あの小さい事務所を見て、NVCの皆さんが自分たちを犠牲にして世界の人々、特にベトナムの人々のために奉仕していると思いました。そのことに感謝し、小さなオフィスからNVCの活動が地球規模に広がっていくことを望みます。本当にありがとう。

戦争後、ベトナムでは経済がどんどん下降し、人々はどんどん貧しくなりました。しかし1992年から開放政策をとることによって、経済もよくなってきてい

ま9。とはいえ貧富の差はいまだに広がっています。最近の統計によると、ホーチミン市内だけで7000人のストリートチルドレンがいます。しかし、ホーチミン市内には40足らずのオープンハウスしかありません。それぞれの孤児院では20人から50人までしかケアすることができません。

昨年11月に洪水があったのですが、それが中部のフエを中心に起こりまして、洪水後中部の子供たちが生活のためにホーチミン市に流れてきています。地方に住んでいる子供たちは貧困に直面しています。両親が生活に充分なお金を持っていないため、子供たちは学校に行けなかったり、放課後魚つりなど、家計を支える仕事をしなければなりません。

ベトナムでは概ねこのような問題を抱えているのですが、今では、NVCのおかげで近くてきれいな学校に通える子供も増えました。例えばNVCが支援しているオープンハウスでは、20人ほどですが、子供たちは安全にすごせる場所があり、将来のことを考えられます。彼らは今とても幸せです。その他にもキークワン寺というお寺で30人の障害者を支援し、社会食堂というところで40人に対して生活保護を行っています。

NVCは沢山の人、特にホーチミン市の子供たちを助けています。しかし、将来本当に必要になるものを言いますと、それは政府の支援の全く無い、幼稚園です。もし親にお金があれば私立の幼稚園に行けるのですが、貧しい家庭の子供は幼稚園に行くことができません。お金があって幼稚園に行った子供が小学校に上がった場合と、幼稚園に行かずに小学校に上がった場合とでは大きな差があります。将来的には、NVCは小学校よりも幼稚園を重点的に建ててもいいのではないのでしょうか。

幼稚園支援の理由として、小学校では6教室が標準になりつつある、ということがあります。幼稚園を建てる方が、孤児院や障害児に100の設備をあげるよりも効果が目に見え易いのです。

また、NVCがまだやってないことの1つにマイクロクレジットプログラム(小規模信用貸し事業)があります。これは小さな銀行みたいなものをつくってそこで貧しい人々にお金を貸して事業を起こさせ、6ヶ月から1年で返す、というものです。このプログラムによって貧しい家庭の子供たちも学校に行くことができると思います。

また、職業訓練も支援して欲しいところです。WOCA:ホーチミン市婦人慈善同盟(NVCのカウンターパート)が美容師養成、ミシンがけなどの職業訓練センターを持っていて、機械はあるのですが運営費に困っています。これは6ヶ月やると100人が職を得ることができて、子供たちにとってもよいことです。

多賀先生と智奈美さんが「すべてできると思うな」といったのですが、できれば思ったことがすべてできるように夢見ています。

## Q & A

福永氏：これから活動を続けていくリンさんですが、ボランティア活動などをしようと思ったきっかけはなんですか。

リン：Because I don't have anything to do. I'm kidding!

福田：他に何もする事が無いからだ。冗談です。(笑)

リン：When I was in America my job was very hard. I hated it. When I went back to Vietnam, I start looking into social and charity works. I saw a lot of people

suffering, especially children, and no one helped them.

福田：アメリカでの仕事が大変で、ベトナムに帰った時に社会活動やチャリティ活動をしている人について調べ始めました。そして子供たちが苦しんでいて、誰も彼らを助けられないという現状を見ました。

リン：I know that the individual cannot help so much, but I feel that this is my duty to help people because I'm Vietnamese.

福田：個人でできる事はそんなに多くないが、自分はベトナム人であるので、彼らを助けるのは義務である。

リン：I think that I can be a bridge between people in Vietnam and people outside like Japanese, NVC, and American NGO.

福田：私はベトナムの人々と、ベトナム以外の人々、日本のNVCや、アメリカの団体の架け橋になろう、だからそのために活動しています。

原氏：先ほどの報告で土地を買って畑を作ったというお話しに関して、どの位の費用が掛かるのか、また髪結いとミシンがけの教育についてももう少し詳しくお聞かせください。

福田：農地の場合は1ヘクタール7500ドルだそうです。居住地の場合は10000ドルかかる、と。また、土地は国家のものなので、使用权の売買のみ、ということ。

リン：If you are Vietnamese, yes. But if you're not, you can't.

福田：ベトナム人だったら簡単だが、外国人では買えないそうです。職業訓練の費用について言えば最初の一年分は先生の給料に教育設備費などを含めて3000ドル、次の年からは2000ドルとなっていて、日本と言う職業訓練とは違うようで、先生60人から100人に対して臨機応変に払う、ということです。

関(一)氏：今NVCはホーチミン市を中心に活動を行っていますが、ベトナム全土で考えた場合、どのような地域が経済的に貧しいのでしょうか。



リン：Thank you for asking that question because I was going to ask that. I'd like NVC to expand your activity throughout Vietnam because I think in the central area and Mekon Delta a lot of people are poorer than in HCM city.

福田：その質問はとてもありがたいです。私もそのような質問をしようと思っていました。NVCの活動がベトナム全土、例えば中部地区や南部のメコンデルタなどにも広げてもらおうと考えていました。そのような地域ではホーチミンより貧しい人が多いのです。

小塚氏：キークワン寺で障害児の世話などを行っているということですが、三つ口などの重度の障害に対する治療はどの位の年齢で行われるのですか、またその費用は。

リン：They treat such children even when they are babies, when 1 year old. We can do it. The operation costs only 50 or 60 dollars.

福田：1歳になったら、ということです。費用は50~60ドルのみということです。

小林氏：キークワンの子供たちのように親のいない子供たちは増えている事かと思いますが、実際の数はどうなのでしょう。

リン：I don't know but the last time I visited to give them presents, 106 children.

福田：はっきりとは分からないが、この前プレゼントを持って行った時は106人だった、ということです。

リン：So I have a question then. I'd like to know what is NVC's plan about Vietnam.

福田：NVCのベトナムに関するプランを聞かせて下さい。

リン：Are you already tired of helping Vietnam? Or will you continue to support for Vietnam?

福田：もうベトナム支援に疲れちゃいましたか、それとも続けてくれますか、ということですが。

リン：I hope we continue to support. It's just my

opinion.

福田：僕の意見では継続して欲しいと思います。個人的には。

多賀氏：ベトナムでNGO登録をする時に、WOCAとの話し合いがあり、ベトナム支援を継続するというように申しあげました。それはJVCがNVCにラオスで種をまいてくれたように、ベトナムの人がNVCを育ててくれたという想いがあるからです。ただ、ホーチミン市の生活水準も上がっているし、他の団体、もしくはベトナム自身の活動が広がってきている。そうすると中部やメコンデルタなどにまで拡大しようか、ということがNVCでも今後議論される事になると思います。

リン：I'd like to say final words. I really appreciate on behalf of children in disadvantage and poor people in Vietnam. I really appreciate NVC's help. I know that Vietnam is not the only poor country, and that NVC have to help other countries as well, so we do everything to help NVC with helping us.

福田：それでは最後の言葉を述べさせていただきます。私は貧しい人々や障害のある子供たちに代わってお礼を申し上げます。NVCには本当に感謝します。ベト

### column: 次の10年に向けて——— 原 敏明 会員 (監事・第1回スタディ・ツアー団長) ———

今から100年前、明治時代の新潟市に、生徒数は女子だけ60人、先生も1人という極めて小さな明道小学校という名の学校があった。

規模は小さいが、大いに他の小学校と違う点があった。第1は寄宿舎を持っており、全生徒を収容していたことである。実はこの生徒のほとんどが孤児であり、小学校に上がらない2~3才のころから学校が預かり保育が養育していた。第2点は小学校を卒業した後も18歳まで養蚕・織機等の技能を教育し、就職した後も結婚するまでは小学校で生活させていたことである。

この小学校は畑を所有し、野菜や果樹を栽培していた。生徒の衣服も、生徒の食料も、小学校で収穫し、これを加工して作るなどして、孤児である生徒達の生活の一部を支えていたのである。

この小学校の運営資金は、実はフランスのヴォランティア団体が出していた。加えてフランスから女性数名も派遣され、保育士として生徒の指導監督等を行っていた。

ナム以外にも負しい国はあるし、NVCも他の国の支援もなくてはならないことは知っていますが、NVCのために私たちもできる事はしたいと思います。

リン：Even though we don't have present like a gold medal to Professor Taga, we really appreciate you from our heart.

福田：金メダルのような勲章を多賀教授にあげる事はできないが、心から感謝する、と。

リン：Today I can see that NVC has a lot of members - young, middle-aged... I know that all of you put in a lot of efforts so that NVC can have many projects in Vietnam. Thank you. So I hope that our friendship will continue. Please tell us about whatever we have been doing so that we can learn from our mistake, and that the cooperation between NVC and WOCA can be better. Thank you so much.

福田：今日は、若い人から中年層まで、多くの人がNVCの事業のために力を注いでくれている事が分かった。過ちから学び、私たちの関係をよりよく保つていくために、今までしてきた活動について何でも言ってください。それでは、本当にありがとうございました。

われわれNVCが今ベトナムで、孤児のため、寄宿舎を持ち、ミシンなど職業訓練もできる学校を作ったことは、実は100年前にフランスが新潟市で行っていたことと同じである。しかもそれに比べると、われわれの事業規模はまだ小さい。

郵便局が行っている国際ボランティア貯金寄付金配分の1998年度実績は、全国で12億4227万円に上っている。新潟の人口は全国の2%だから、この配分額の2%に相当する約2500万円が、新潟県に配分されても不思議ではない。だが実態は僅か88万円ではない。また配分を受けた団体は全国で204団体だったので、新潟県はその2%の4団体があつてよい。だが実態はわれわれNVC1団体のみである。

われわれNVCは創設から10年、その活動は、幸い多くの支援者に支えられて順調だった。

だが満足ばかりしては行かない。次の10年を考え、さらなる事業展開に向け、知恵と汗を流さねばならない...そんなことを思ったりしている。

VFP (ベトナム未来プロジェクト)  
最新情報

福田 忠広 会員

ベトナムでのNVCの活動は、小学校建設というハード面を重視したプロジェクトから出発した。現在ではそれに加えて、貧しい人々、ストリートチルドレン、障害を持った子供たちの自立を助けるという、ソフト面のプロジェクトを行っている。これまでのキークワン寺の盲学校への支援は、食費や教育設備費を援助することが中心で、子供達に十分な栄養を与えることに主眼がおかれていたが、今年度からキークワン寺が新たに購入した農地に投資することになった。お寺のお坊さんが中心になって農地を買い、農作物を生産・販売することで、障害を持った子供たちやストリートチルドレンの生活を保証しようとしている。NVCはそうした自立が達成された次第同プロジェクトから撤退する予定である。

もうひとつの社会食堂については現在も試行錯誤が続いている。この社会食堂は現地の女性同盟が管理しているが、運営費や子供達の食費を外国の援助に頼り切っている。外国の団体が援助を打ち切れば、子供達はまたゴミ拾いや宝くじを売る生活に戻るしかない。そうした問題は依然として残っているものの、昨年度から職業訓練のための資金を提供し、働ける年令に達した子供達に貸し出して数年後に返済してもらうというプロジェクトを開始した。

NVCは、一人の専従職員も持たずにこれらのことを行っているが、これからの時代、個人や地域が国境を越えて結びつき、日常の生活のなかで自分達の時間と労力を社会正義のために使うことこそが重要になってくる。多くの人々が、長期間にわたり自分のできることを無理なく継続する「場」が必要であり、NVCはその役割を果たしている。VFPは、現地の人々の夢に援助を与えるプロジェクトである。新潟という小さな地方から、国境を越えて海外の人々の思いを少しづつ叶えているのである。



今年4月に開校したビンフォック村小学校 (VFP17)

## ビンフォック村の小学校開校を祝して

小堺 英雄氏 (2000年4月8日 開校式でのスピーチより)

皆さん今日は良い日です。新しい学校が出来ました。小学生の皆さんが今まで通っていた小学校は、自動車が沢山通る道路の向こう側にあります。新しい学校は小さな学校ですが、安全に通えること、家から近くなったことが良い点です。3教室の校舎ですので、学年によって、午前と午後に分かれて授業を受けることとなります。皆さん一生懸命勉強して知識と能力を身につけ、大人になったら恵まれた人生を送れるようになって欲しいと思います。

今回、私と妻は、ベトナムの子供達のために小学校を作りたいと考えました。ベトナムでは小学校が大変不足していて、2部授業、3部授業が当然になっていると聞いたためです。しかし、私達が提供できる資金では3教室の校舎しか出来ず、2部授業が前提になってしまいました。そこで、私達の希望としては、これがきっかけになって、出来るだけ早い時期に、今度は、ベトナムの政府や地域の人達の努力によって別の校舎を建設し、日本の小学生と同じように、3年生以上は午前も午後も授業が受けられるようになって欲しいと願っています。

また、この小学校建設に当たって協力して頂いた、「NVC・新潟国際ボランティアセンター」と「WOCA」の皆さんに感謝したいと思います。私達にとっても、小学校が建設できたこと、ベトナムの人達の将来のために役立つことが出来たと思えることは、大きな喜びです。これから先、私達がベトナムに来る機会が無いとしても、沢山のベトナムの子供達が、毎年新入生になって、この小学校に入学し、勉強し、成長していく姿を、日本にいても想像できる喜びがあります。このような喜びを実現できたのは、NVCとWOCAのお陰ですので、この場でお礼を述べたいと思います。加えて、立派な建設工事を行ってくれた建設会社と労働者の皆さんにもお礼を述べたいと思います。「あり難うございました。」

ところで、ベトナムに来て強く感じたことがあります。ベトナムに来たのは初めてです。日本にいても、ベトナムのことはテレビで見たりして可成り知っているつもりですが、実際に来てみると肌で感じるものがあります。それは、一口に言って、ベトナムは豊かな国だということです。本当は日本より豊かな国だということです。現在は、偶々、日本人の方が、平均的に見れば豊かな生活を送っていますが、本来なら、ベトナムの方が豊かなはずなのに、という事です。

何故なら、ベトナムは太陽の恵みが多い国です。暑い国です。一年中作物が取れます。何時でも、何処でも、何でも作れます。食べ物に困ることはありません。



日本は違います。寒い国です。私達が住んでいる東京は、ようやく春になりました。コートや脱げる季節になりました。NVCの人達が住んでいる新潟は未だ冬です。雪が降ります。海に面して、晴れた日には佐渡島が見える新潟市は、雪は少ないのですが、海から冷たい風が吹き付けます。私が小学生になる前に、2年半住んでいた新潟県の山の中の集落は、今でも一面の雪の中にあります。父親の故郷です。そこで生活するのは困難ということで、東京に出てきた場所です。物凄い豪雪地帯です。雪が沢山降る年は、この学校の屋根ぐらまで雪に埋まります。雪は12月から降り出し、融けて消えるのは5月です。寒いし、思うように動けません。問題なのは、雪に埋もれる半年間は作物が作れないことです。食べ物が無いと飢え死に生きていくのか？これは大問題です。その上、寒さに耐えられる家を造り、分厚い衣類を確保し、沢山の燃料も確保する必要があります。そうでないと凍え死んでしまいます。冬の厳しさは大変です。それを乗り越えて人々は生きてきました。

雪が多いのは新潟県だけではありません。冬の間は、日本の半分の地域は雪で覆われます。東京は、冬でも雪は殆ど降りません。晴れている日が多い地域です。しかし作物は作れません。気温が低すぎるのです。寒い朝は水が氷に変わります。

日本は、本来は貧しい国です。生きていくのが難しい地域です。それでも、そこで生まれてしまった人間は、そこで生きていくしかありません。だから、日本人は、昔から一生懸命働きました。飢えないように、凍えないように、働き続けるしか方法はなかったのです。働くといっても、体を動かしているだけではありません。どうやったら困難を解決できるか、もっといい方法がないかと、絶えず考えながら、失敗を教訓に変え、他の人の知識や経験を学びながら、更に工夫を加えて働いてきました。その長い長い労働と学習の積み重ねの上に、現在の日本があります。日本人の教育熱心、学習意欲の強さは民族の特長と言えるでしょう。

今から55年前、日本は戦争によって、いったん廃墟になりました。私達夫婦も、勿論当時は別々ですが、爆撃によって火の海になった東京で、それぞれ、母親に手を引かれ、抱えられながら、辛うじて生き延びることができました。しかし、日本は立ち直ります。日本人全体に、先祖伝来で染み付いてしまっている頑張り精神があります。新しい知識、新しい技術を学びながら、復興し、発展し、いつの間にか「経済大国」と言われるようになりました。そして、先進国の一員として外国の発展を支援できる立場になり、私達のような個人の段階でも、外国の人達への支援を行えるようになりました。その事は、貧しい時代の日本を知っている私達には、自分でも信じられないような発展ぶりです。しかし、日本の発展はすっかり行き止まりになったようです。現在は経済が低迷し、失業者が増える時代です。将来の明るい見通しも立ちません。日本人の大半は、将来の生活状況が悪くなることを心配して、それに備える気持ちになっています。外国の人達を支援する余裕は、急速に減っていくと思います。

そこで、話は、ベトナムに来て感じたことに戻りますが、ベトナムは本来日本より豊かな国、飢える心配も、凍える心配もない恵まれた立地条件の国だということです。これからどんどん発展する国です。発展する可能性を沢山持っている国です。そのために、先ず必要なことは教育を充実することです。何を差し置いてもそれが大切です。国を作っているのは人間です。人間の能力が高まれば国の能力も高まります。ベトナムの人達は、勤勉で、学習意欲が高いということが、日本でも知られています。ベトナムの子供達が教育を受ける機会が増え、教育の内容が充実していけば、ベトナムの将来は明るく、大きく開けて行きます。今回、私達夫婦が支援したビン・ホック地区の小学校建設が、ベトナムの将来の発展の一助として役立つことを願って、私の挨拶を終わらせることにします。

最後に、小学生の皆さんには、私の話は分かり難くて、退屈したと思います。気分を変えて、一つ、日本の小学生が学校で習う歌を聞いて貰おうと思います。「砂山」という歌で、歌の舞台は新潟県です。新潟県の人達が好きな歌です。

## 「砂山」

|         |         |
|---------|---------|
| 海は荒海    | 向こうは佐渡よ |
| 雀鳴け鳴け   | もう日は暮れた |
| 皆んな呼べ呼べ | お星様出たぞ  |

それではこれで終わります。皆さんのお陰で、このような素晴らしい機会を与えて頂きまして、有り難うございました。



## NVC Bangladeshが動き始める

Bangladesh担当 藤崎 千代子会員

昨年の11月26日、NVC Bangladeshの設立を前提として双方が一般合意書とプロジェクト合意書に



NVC Bangladeshカベリさん宅にて

調印し、Bangladesh側が政府に対してNGO登録を始めて以来、動きがないまま半年以上が経過した。そして突然、Bangladesh政府からお墨付きをもらうことができ、本格的な援助活動が始まろうとしている。12日にFAXで入ったベンガル語の文書の英語翻訳版は右の通り。

この文書を双方ともどれほど待ち望んだことか。最初に知らされたのは、これから取引する銀行の口座番号だった(5月8日付:26日のFAX)。次にNVC Bangladeshの登録番号が1531に決まったと連絡してきた(6月9日FAX)。そして12日、運営委員会に出席して留守中にベンガル語の正式文書とその英語版の上記コピーがFAXで送られてきていたのである。その運営委員会では、次のことが決まった。

- 1: 正式文書が発行されてから実際の援助を開始する
- 2: 援助項目の優先順位をBangladesh側に選択してもらい、上位から数回に分けて送金する
- 3: 援助される人々の名簿(名前、年齢、住所、家族記録)を用意すること
- 4: 援助が始まったら経費の領収書が必要になること

これらをE-MAIL用書き、向こうと連絡する渡辺順美さんに送った直後に、正式文書のコピーを見つけた。運営委員会で決まった

最初の条件はクリアしたわけで、大急ぎで「おめでとう!! 私達の活動が本格的に始まりますね。11月にはスタディツアーを組んで訪問します。その時援助した方々やNVC Bangladeshのメンバーとお会いするのが楽しみです」と、取りあえず高橋代表と相談し、海外出張中の多賀先生の帰国を待たずにMailを送った(6月13日)。

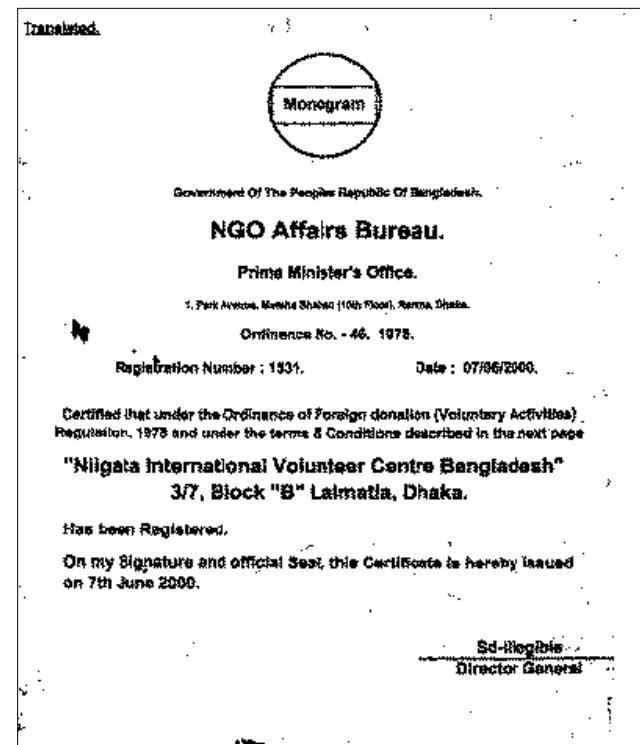
今はBangladeshからの返事を待っている段階である。

NVC Bangladesh側は、銀行に口座が開かれた段階で、NGO登録が確実なものとなせると考えたかもしれないが、我々日本人にとっては心許ない話で、文化の違いを実感させられた一幕だった。

NVC Bangladeshの1999年の会計年度は1999年7月~2000年6月という変則的なもので、彼等も期限内に何とかしたいと考えて苦労したのではないかと想像している。

1999年度予算は緊急支援だったが、2000年会計年度からは研修計画と信用貸付計画が予定されている。2000年度予算はこれから組むことになる。

(2000年6月14日記)



## NPO情報交換会が開催されました

金子 洋二 会員

去る5月17日、新潟ユニゾンプラザにて、「NPO情報交換会」が開催され、NVCからは谷口事務局長と進運営委員、主催者側として金子が出席しました。

この会を開いたのは「にいがたNPOネットワークプロジェクト」。昨年11月に、県内で活動する非営利団体の横の連携を支援しようとして組織された民間のグループです。

同プロジェクトは、今年の1月より新潟県の委託を受けてNPO活動実態調査を実施。県内約2850の非営利団体を対象にアンケート調査を行い、中でも特に顕著な活動をしている団体には直接取材するなど、きめ細かな調査活動を続けてきました。今回の情報交換会では、その実態調査の結果が報告されると共に、出席団体がそれぞれ活動をPRし、模造紙とポストイットを使ったワークショップ方式で意見や質問を交換し合いました。

会場からは、「共同でNPOサポートセンターを運営しよう」「NPO間で流通するエコマネーを試験的に採り入れよう」などの具体的な提案も出され、議論されました。

当日の資料(上記の活動実態調査の結果を含む)は事務局にて保管してありますので、興味のある方はお申し出ください。

にいがたNPOネットワークプロジェクト事務局  
新潟市米山6-1-3 (株)博進堂内  
TEL:025-241-8355

## 新潟日報「ささえあい」連載について

5月の第3週から、隔週で新潟日報の生活面「ささえあい」の記事を、NVCが提供させていただくことになりました。主な内容と執筆者(敬称略)は以下の通りです。

- VFP4(ドンタン村小学校): 藤崎 千代子
- VFP6(オープンハウス): 三浦 真
- VFP7(タイミー小学校): 佐藤 文男
- VFP8(奨学金): 石本 勝見
- VFP9(社会食堂): 福田 忠広
- VFP11(キークアン寺): 小林 伸子
- VFP15(奨学金): 江花 和郎
- スタディツアー: 小泉 春奈
- Bangladesh: 坂上 元美
- バザー: 嶋田 正義
- VFP9911(緊急支援): 多賀 秀敏
- NVC活動に参画して: 馬場 隆史
- 県外からNVCを概観する: 筒井 昭仁
- NGOの問題: 谷口 良

## お知らせ

### 掲載情報を募集します!

かけ橋を購読者相互の情報共有の場として活用するため、掲載情報を大々的に募集します! 国際交流やNPO全般について耳寄りな情報がございましたら、どしどしNVC事務局までお寄せください。

寄稿される場合、文字数は問いませんが紙面の都合で調整させていただく場合もあります。次回「かけ橋16号」は、バザー後の11月中旬発行予定です。掲載情報は11月初旬までにお送りください。

# リレートク

# NVC's Human Network

瀧澤 勇人さん 運営委員・広報/インターネット担当(新潟市)

私が新潟に来たのは今から7年前。会社の最初の勤務地として新潟に赴任しました。

興味本位から新潟県の青年海外派遣事業に関わって、県庁の関さんと知り合い、その後NVCの存在を知りました。

当時、関さんからの誘いもあり、一緒に仲間を集って現地ベトナムに行き、はじめて国際ボランティアというものを肌で実感しました。その頃は、まだ国際ボランティアというものを文字や書物でしか知識がなく、テレビなどで得る断片的な情報しかありませんでした。

当時のMABCオープンハウスは、入り組んだ路上をクネクネ曲がって入ったアパートの2階にあって、建物はオンボロだったけれども施設の中はすごく整理整頓され、きれいに使われていました。地方の児童センターのような雰囲気がありました。子供たちが笑顔で迎え、ニコニコして歌を歌ったりして、しかし子供たち笑顔を見ながら、路上で生活していたという子供たちの実状を考えると、何

かしなければという気持ちに駆り出されたのは、一緒にいた仲間も同じでした。

2年前、ベトナムに再訪問したときには、MABCオープンハウスは移転新築されすごくきれいになっていて、子供たちが近所の子供たちと一緒に遊んでいました。小さな子供たちがすっかり大きく成長し、当時の写真と比べて見せたらすごく喜んでいたので記憶に新しいです。

世界にはまだまだ厳しい現実がいっぱいあります。実際に生きるか死ぬかという瀬戸際で、子供たちが路上で生活し、生きることの価値が日本とは全く違い、命の重さも簡単にお金で代わられてしまう世界があります。小さな活動が子供たちの大きな期待につながるという気持ちで、NVCの活動に関わっています。

無理せず出来る範囲で頑張ることをモットーにして、頑張りたいと思います。どうぞよろしくお祈りします。

Relaying to

次回は...

ベトナムのキーファン寺へ洗濯機を送るプロジェクトを進めている小林伸子さんをお願いします。

中谷 和子さん 会員・第1回スタディツアーに参加(群馬県邑楽町)

私にとって第3の故郷となった長岡の地を離れて、もう6年近くになります。その間何の活動もできずに今日に至っていることを心苦しく思っています。そして、年々活動範囲が広がるNVCの行動力にはただただ感心するばかりです。折々に送られてくる「かけ橋」は、読み応えのある記事満載で、いつも元気をいただいています。誰に強制されることもなく、やりたいことを、言い出しつべを中心にやってしまうこのエネルギー、これが元気に活動を続けていける源だし、これだから続いているのだと思います。そして私もまた離れられない理由だと思えます。

こちらで私なりにできることはと考えることもありましたが、一人でがんばる自信もな

く過ごしていました。昨年末、こちらでも曹洞宗の住職さんが中心になって曹洞宗ボランティア会のハンディクラフト販売と絵本を送る(カンボディア語訳を貼って)活動をしている小さな会を知り、仲間入りさせていただきました。目下のところは、仕事(週三日の勤務)と、福祉ボランティア(点訳と音声訳)で手いっぱいというところですが、こちらでもまた一歩を踏み出してみようかなどと考え始めているところです。せっかく何か文章をとお声がけいただきましたのに、近況報告と挨拶だけでお許しいただきたいと思えます。

会員のみなさまのますますのご活躍と、NVCのなご一層のご発展をお祈り申し上げます。

Relaying to

次回は...

第1回スタディツアーで一緒させていただきました清水智子さん。青年海外協力隊などにも参加し、精力的に活動しておられます。

坂 有祈子さん 運営委員(新潟市)

みなさん、はじめまして。坂 有祈子(ばん ゆきこ)と申します。新潟大学の4年生、三重県・四日市市の出身です。長所は明るく素直なところ、短所は過度にのんびり屋なところ。国際交流に興味があって、新潟大学国際ボランティアサークル(私たちは「国ボラ」と呼んでいます)に入り、NVCのことを知りました。1年生の夏、何も分からないままNVCの納涼懇親会に出席し、秋にはバザーの宣伝のため、サークルの先輩と一緒にNT21の「いきいきワイド」に出演しました。「にーにーのナッパキュウキュウ!!」(NVCの電話番号は222-7899です。)と絶叫したのも懐かしい思い出です。

今までの私の学生生活はサークル(国ボラ)と共にあったといえます。副代表・代表となった2年間はサークルに夢中でした。学部での勉強はそっこのけで、「どうすればもっと楽しいサークルになるだろう?」と、そればかり考えていました。昨年は、サークルの

仲間と学生別働隊を結成して、ベトナムスタディツアーに参加しました。オープンハウスの子供たちの輝く笑顔、物乞いの女性の悲しげな表情……。どちらも印象に残っています。最近、大学4年間考えてきた「ボランティア」って何だろう?「国際」ってどういうことだろう?という問いに、「情報化社会の中でNPOが果たす役割とは?」という問いが加わりました。これらに対して自分なりの答えを見つけたいです。

私は、若く未熟な者も受け入れてくださるNVCの懐の大きさに魅力を感じています。数々の素晴らしい出会い、年代の違う方々との触れ合いから、大学では出来ない経験と勉強をたくさんさせていただいています。NVCが、さまざまな年代の、さまざまな立場の、さまざまな国の人々にとって魅力のある組織であり続けるために、学生の力を活かせたらいいな、と思います。よろしくお祈りします。

Relaying to

次回は...

次回は、運営委員会に行く時によく車に乗せてもらっている福永憲昭君にバトンタッチしたいと思っています。ベトナムへ行った仲間の1人である彼は、子供と遊ぶことと長瀬剛の歌が大好きです。彼の加賀弁を聞いていると、私も地元の四日市弁で話したくなります。けんしょう君、おもしろい自己紹介を期待しとるよ~。

宮 永承さん アドバイザー(三条市)

NVCとの出会い

私が新潟中央郵便局に勤務していた平成4年3月、郵政省が「国際ボランティア貯金の寄付金の配分申請のできる民間の海外援助団体」の申請受付をしていましたが、当時新潟県内には申請がありませんでした。

新潟大学の多賀先生が、ラオスで活動しているらしいとの情報を聞き、行ってみました。

大学の一室で、ラオスは世界一貧しい国で、乳児の死亡は5人に1人、毎年「ラオスの子どもを救おう愛の架け橋バザー」を実施し売上金で支援している、申請は出しますが郵便局も協力して欲しい、と熱心に話をしていたことが今も印象に残っています。

申請は、当時「現地での活動をしていないことなど」を理由に配分は受けられませんでした。その後配分金がNVCのおおきな資金源になっていることを喜んでます。

その年からバザーは、新潟市内各局の了解を得て進めることが出来ましたが、何年かして東北電力グリーンプラザが手狭になったとき、新潟中局を使用させていただくことになり、現在も続いています。

NVCの活動に熱心でない私が、アドバイザーとして登録させていただいていることを心苦しく思っていますが、出来ることから頑張りたいと思っています。

註:国際ボランティア貯金は郵便局の通常貯金の受取利子を開発途上地域の人々の福祉向上のために寄付していただく貯金です。

現在の加入者は約2580万件、11年度の配分額は、11億8023万円、これまでに163億円にもなります。

NVCには、各地で講演会をお願いしています。(郵政省の宣伝でした。)

Relaying to

次回は...

バザーのことでいろいろとお世話になった野水和行さんをお願いします。前バザー担当、大変おつかれさまでした。

# 事務局 だより

## 12年度郵政省国際ボランティア貯金の配分額が決まりました

今年は3つ申請しましたが、不況のあおりを受け、配分額は昨年より60万円低い1,275,000円となりました。内訳は

|                  |          |     |
|------------------|----------|-----|
| ベトナムの小学校建設費用として  | 452,000円 |     |
| ベトナムの社会食堂支援費用として | 823,000円 | です。 |

## かけ橋の編集をして下さる方を募集します

本号「かけ橋」15号の編集発行は、金子洋二運営委員が担当してくださいました。装丁が変わり、一新しました。ありがとうございました。しかし、金子洋二運営委員はしばらく日本を離れるとのことで、次号の担当者が不在となります。そこで「かけ橋」16号の編集発行を担当して下さる方を募集いたします。奮ってご応募ください。

## 「愛のかけ橋バザー」のお知らせ

第12回NVC愛のかけ橋バザーを、平成12年10月21・22日(土・日)に開催いたします。今年も総力を上げて取り組みたいと思います。例年のようにバザーに向けて準備を進めておいてくださいますようお願いいたします。

## 第25回NVC「地球を知る講座」を開きます

今回は、ベトナムに長らく滞在し、現地での活動経験豊富な講師をお招きしてベトナムの各種事情についてお伺いします。ぜひご家族・お友達も誘ってご出席下さい。

講師：渡辺 弘之 氏（新潟県立看護短期大学講師）

1995-97年、ホーチミン市国家人文社会科学大学東洋学部等にて日本語講師を勤める。  
また、「ベトナム・ハンセン病患者の交流プロジェクト」の事務局として、夏期、年末年始など現地に長期滞在し、スタデーツアーの受入等を行っている。現在は、県立看護短大で社会学、社会福祉制度等の講義を担当。

日時：7月15日（土）13:30～16:00

会場：新潟市総合福祉会館403号室（54人定員）

講演終了後、講師との懇親会も計画しています。

## Eメールをお使いの方、アドレスを教えてください

情報交換の促進と効率化のため、Eメールを活用していきたいと考えています。

つきましては、NVCのメールアドレス：nvc@yahoo.co.jpまで、ご自分がお使いになっているアドレスをご連絡ください。（最近の入会などで既にお知らせいただいている方は改めてご通知いただく必要はありません。）